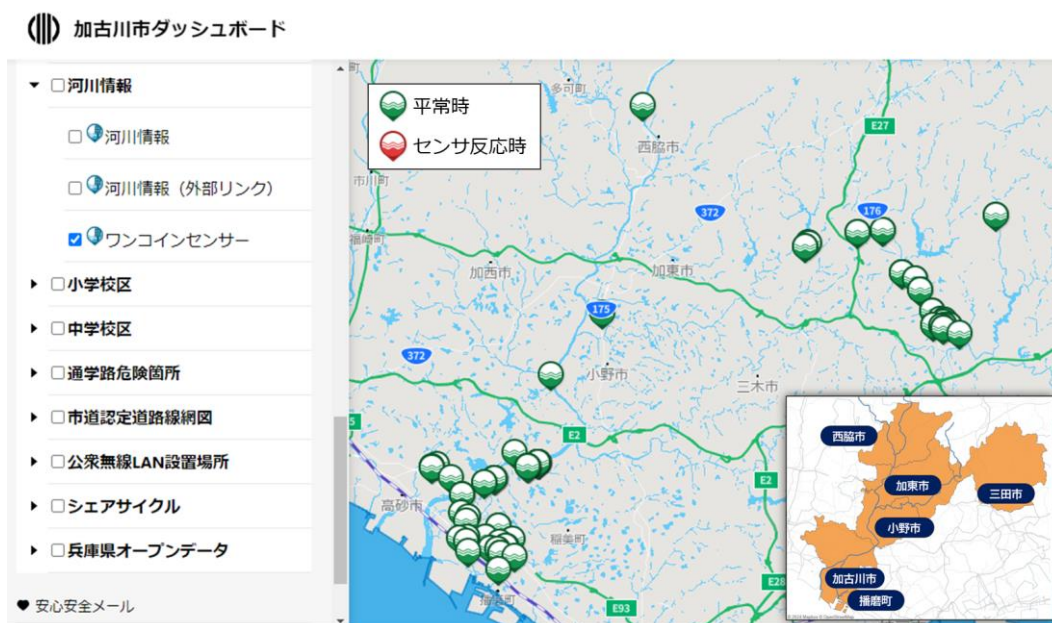


## 公民連携・広域連携による浸水センサを用いた広域データ連携実証を開始

三田市は、浸水が想定される地域に浸水センサ\*を設置して浸水状況をリアルタイムに把握することや、それらの状況を広域的にデータ連携・データ利活用することについて、昨年度より加古川市との連携により取り組んできました。このたび、令和6年3月1日より、新たに4自治体（西脇市、小野市、加東市、播磨町）が参画し、浸水センサを用いた広域防災の実証を開始することになりました。なお本取り組みは、国土交通省の支援を受け、民間企業と連携しながら実施します。

**実証①** 令和5年度中に本市が民間企業との連携により設置した計37台の浸水センサを、加古川市が運用するデータ連携するシステムを介して、同市の行政情報ダッシュボード（地図上で各種データを重ねて確認できるシステム）に表示させる。



【図】加古川市行政情報ダッシュボードのイメージ

**実証②** 浸水センサから得られるデータを蓄積し、雨量データやハザードマップ（洪水浸水想定区域）データ等と連携することで、減災対策・治水対策等への活用を検討する。

**実証③** サービス実装に向けた運用上の課題を確認し、対策を検討する。

\* 国土交通省では、近年、大雨による浸水被害や河川の氾濫が頻発しており、面的に浸水の状況をいち早く把握し、迅速な災害対応を行うことが重要となっていることから、国・自治体・民間企業等の様々な関係者が「小型・長寿命・低コスト」の「浸水センサ（後述の参考資料参照）」を多数設置し、浸水状況を面的にリアルタイムで把握する仕組みの構築に向けて、浸水センサの特徴や情報共有の有効性等の実証を実施しています。本市も令和4年度末より参画しています。

【参考資料】 設置した浸水センサの例

①京セラコミュニケーションシステム株式会社（京都市伏見区）提供 計25台



②NTT インフラネット株式会社（東京都中央区）提供 計8台



③旭光電機株式会社（神戸市兵庫区）提供 計4台

